

お墓の「使い方」を考える(第1回)

近ごろよく見聞きするようになった「お墓ばなれ」「お墓じまい」という言葉にとっても違和感をおぼえます。

かつては「お墓は有って当たり前」、暮らしの中で必要不可欠な、空気のような存在だったように思いますし、私は今でもそう思っています。ところが今では墓石屋の私に「お墓って必要ですか?」と尋ねる人が普通にあります。

お墓を作るのが商売だからこんなことを言っているわけでは、ありますが(笑)、そればかりではありません。

お墓は亡くなった人の遺骨を埋葬する場所です。今は昔と違い、遺骨を埋葬(あるいは安置)する場所・方法が多様化しました。だから「(遺骨の行き先としての)お墓は必要か?」という疑問が生まれるのかもしれない。

しかし、昔の人たちにとってお墓は単に遺骨を埋める場所ではなく、例えば、信仰(心のよりどころ)や一家一族の過去・現在・未来をつなぐシンボルとして、暮らしを豊かなものにするために「使って」いたのではないのでしょうか。そのようなお墓の「使い方」を、今の我々は教わらず受け継がず、忘れてしまったのではなからうか。お墓の「使い方」を知り、暮らしに役立つものであると分かれば、お墓をしまうなどというもったいないことはできないでしょう。

このコラムでは今後、そんなお墓の「使い方」を皆さんと一緒に考えていきたいと思っています。 【齋藤 繁樹】

お墓参りの夜空に ★彗

私は星空が大好きです。決してロマンチストアピールではありません(汗)。

好きになった理由がお墓参りに関係しているんです。私が中学生のときでした。思春期ということもあって、お盆のお墓参りに家族と一緒に行きたくなくて、夜遅くに一人で行くことにしました。

夜の10時前くらいに家を出て、真っ暗な中を明かりも持たずに出かけました。

お寺に着いて、お墓に向かって歩いていく途中でした。上空に大きな流れ星が流れたのです!それも一瞬ではなく数秒間流れ、残像も残るくらい!

その流れ星を見て以来、星空が大好きになりました。後で調べたら、お盆のお墓参りの時期はペルセウス座流星群のピークだそうです。(編集長注:国立天文台によると、今年のピークは8月13日前後とのこと。)

皆さんも、今年のお墓参りの帰り道に夜空を見上げてみてはいかがでしょうか?

繰り返しますがロマンチストアピールではございません(汗)。

【首藤 隼人】

石屋のイロハ(第1回)

これから、一般的にはあまり知られてなさそうな石屋のことをこのコラムで紹介していこうと思います。第一回は、石を加工してモノを作る石工職人について。

技能士という国家資格をご存知ですか?働く上で必要とされる技能を持っていると国が認めた(検定試験に合格した)職人のことです。石工職人の技能士は石材施工技能士と呼ばれ、石材加工・石張り・石積みの各作業で技能検定試験が行われます。

齋藤石屋で働く職人(社長を含む)は全員、石材加工・石張りのどちらか(あるいは両方)の一級技能士です。ですが、上にも書きましたがこれはあくまで「(石工職人として)働く上で(最低限)必要とされる技能を持っている」に過ぎない、いわば職人としてスタートラインに立ったことを示すものと考えています。毎日の仕事の中で、性質の異なるいろんな種類の石を使ってさまざまなモノを作り(巻頭に載せた手加工の五輪塔もその一つです)、その経験とものづくりの達成感を積み重ねていくことで一人前の石工職人になれるのだと思います。

齋藤石屋では、そんな職人が日々腕をふるい、技を磨いています。 【齋藤 繁樹】

暮らしに石を(1)



暮らしの中で役立つ「石」を紹介します。

今回は夏向けの一品として『ひんやりボード』。

ただの板石ですがわんこ気持ちよさげ

編集後記

今号もお読みいただきありがとうございます。文が多くて教科書みたいですね。ラーメン大好き編集長です。(最近のお気に入りには豊栄駅前の勝鬨屋です) ラーメンのほか、酒と音楽と旅とキャンプ(野宿)も大好きです。なので、夏の楽しみといえばロックフェス!

(野外で開催される大規模音楽イベントのことです) 7月末に苗場で開催されるフジロックには毎年参加しています。今年は誕生日(7月30日)が開催日にあたるので、会場で友達みんなにビールをごちそうしてもらいます。皆さんもどうぞ楽しい夏を! 【齋藤 賢太】

このニュースレターに関するお問い合わせ・ご意見・ご要望はこちらまでお願いします。お届け先の変更や、ニュースレター送付不要の際もお知らせいただければ幸いです。(担当: 齋藤 賢太)

(有) 齋藤石材店 〒950-3321 新潟市北区葛塚4804 Tel:025-386-3491 Fax:025-386-3493 E-mail:saitougs@beach.ocn.ne.jp ホームページ:http://www.saitougs.com/

齋石季報

平成29年 夏号 (第2号) (有)齋藤石材店 新潟市北区葛塚

この夏、齋藤石材店は「遊べる石屋」「学べる石屋」になります!



ごめんください。梅雨のじめじめしたうっとうしい時期ですが、なででしょうか。例年、6~7月というのは石屋にとって「お盆の前にお墓を建てたい・直したい」というお客さまからのお仕事で忙しい時期なのですが、今年は今のところいつもより落ち着いております(苦笑)。今号では、「お盆」に関することや夏のお墓のお手入れの仕方をまとめてみましたので参考にいただければと思います。皆さまが、ご先祖さまとともにしあわせな夏を迎えられますように。

夏休み! 石屋で遊ぼう! 学ぼう!

石屋で遊ぼう!

- ・拾った石で飾りもの作り
- ・積み石あそび (ロックパラシング)
- ・石の動物園
- ・お墓の顔ハメ写真...などなど
- ・「石を使って遊べないかなー」と現在いろいろ検討中です

石屋で学ぼう!

- ・石のこと
- ・お墓のこと
- ・石を使ったいろんなもの などなど
- 自由研究や 絵日記の 題材探しに



→→→詳しくはホームページでお知らせします

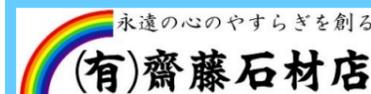
本社・工場

新潟市北区葛塚(正尺)4804 日本海沿岸東北自動車道 豊栄新潟東港I.C.すぐ近く Tel: 025-386-3491 Fax: 025-386-3493



太平店

新潟市東区太平2丁目1-31 国道113号沿い、新潟空港の目の前 Tel/Fax: 025-275-9638



ホームページ: <http://www.saitougs.com/> E-mail: saitougs@beach.ocn.ne.jp

齋藤石材店 新潟 で検索

お盆とは

お盆といえば、里帰り。
久しぶりに家族や親戚同士が集まったり、同窓会が開かれたり、いろいろな人との再会が楽しみです。
ご先祖さまも里帰ります。お墓やお仏壇をお参りして、ご先祖さまとも良き再会を。

お盆の行事の由来

①日本では古くから「お盆の時期にご先祖さまの霊(祖霊)が里に帰ってきて幸福をもたらしてくれる」と考えられてきました。
そこで、お盆の時期に里に戻ってくる祖霊をお迎えし、おもてなしをして、お送りするならわしができました。

②また、中国から伝わった「仏説盂蘭盆経(ぶっせつうらぼんきょう)」というお経に説かれている、お釈迦さまのお弟子さんの目連(もくれん)の物語にちなんで「盂蘭盆会(うらぼんえ)」の行事がおよそ1,300年前から行われてきました。
目連は、餓鬼の世界に落ちて苦しんでいる亡き母を救うためどうすればよいでしょうか?とお釈迦さまに尋ねました。するとお釈迦さまは「僧侶の夏の修行が終わる日(7月15日)に多くの飲食物などを盆に盛って僧侶みんなにお供えて、父母から七代前までの祖先のために祈願してもらいなさい」と教えられました。目連をはじめ僧侶たちがそのように実践すると、母は餓鬼の世界から救われたといえます。

この二つの由来を中心にいろんな要素が混ざり合って、全国各地でさまざまな行事が行われているものと考えられます。

<お盆と火>
お盆の入りにご先祖さまをお迎えする「迎え火」お盆終わりにご先祖さまをお送りする「送り火」お盆は直接関係ないけど夏の夜を彩る「花火」お盆が行われる旧暦7月15日、中国では「中元」と呼び(夏の贈り物は「お中元」ですね)、自らの日常を反省して一日中火を焚く習慣があったそうです。



<盆踊り>
盆踊りの由来は地域によってさまざまですが、新盆を迎えたご先祖さまを供養するために行う地域もあるようです。全国的には
・西馬音内(にしもない)の盆踊(秋田県)
・郡上おどり(岐阜県)
・阿波おどり(徳島県)
・北海盆踊り(北海道)などが有名ですね。



沖縄のエイサーも盆踊りの一種でしょうか?
新潟まつりの民謡流しは盆踊りと関係あるの?

<精霊棚・お供え>
精霊棚(盆棚)を作ってお供え物をしますね。(浄土真宗では行いません。)
内容は地域によって異なりますが、地蔵院さまによると 水、蓮の葉に盛った刻みナス・洗い米・団子など、妙見寺さまによると果物やお菓子などをお供えするそうです。そのほか里芋など農作物やそうめん・うどんなど麺類をお供えするところもあるようです。
また、キュウリで作った馬やナスで作った牛をお供えしますが、これは「ご先祖さまが来る時は馬に乗って早く来てもらいたい、帰るときは牛にお供え物をたくさん載せてゆっくり帰ってもらいたい」という願いが込められているそうです。ほおずきはご先祖さまの提灯に見立ててお供えします。

「お盆休みの思い出」作文・コメント 募集!
次号ニュースレターに掲載させていただきます!

お盆の行事や過ごし方について お寺さまに聞きました

今回、新潟市北区にある三つの寺院に、上に書いたお盆の由来のほか、お盆の行事や過ごし方について伺いました。

曹洞宗 地蔵院さま(神谷内)

当院ではお盆の行事として、8月7日から本堂に祭壇を設けてお盆供養の法要を行います。9日~12日には、昨年のお盆以降に亡くなった方々の新盆供養と檀家さんのご先祖供養のために御詠歌を上げます。お盆期間の13日から16日の昼まで、檀家さんのお宅を回ってお経を上げます。ご先祖さまとともに良いお盆を過ごしていただきたく思います。

日蓮宗 妙見寺さま(木崎)

お盆には古くから各ご家庭で「精霊棚」を設けてご先祖さま(精霊)をお迎えしてきました。日蓮宗ではお盆の期間中に各ご家庭を回り、精霊棚をお参りしてお経を唱えます(これを棚経(たなぎょう)といいます)。また、餓鬼を供養する「お施餓鬼(せがき)」という行事を、お盆とあわせて「盂蘭盆施餓鬼会(うらぼんせがきえ)」として行っています。
このような行事を通して、皆様のご先祖さま、また直接の血縁関係にはないすべてのご先祖さま・精霊の飢えている心を癒してもらうためにも、お盆にはぜひ家族や親戚がそろって、これからの世代の方々の手を引いて一緒にお参りしていただきたいと祈るものです。

浄土真宗大谷派 明正寺さま(葛塚)

お盆とは、ご先祖に思いを寄せ、自分の「いのち」の歴史・つながり・ふるさとなどを考える行事です。
誰もが自分の先祖を十代ただとすると1,024人、十五代では32,768人の親がいます。親のみならず、私たちはどれだけのものに支えられ、どれだけのものを支えているか。ただ事ではない「いのち」を私たちは生きていることを、お盆を通して感じられたら素晴らしいですね。
お盆前にはご門徒(檀家)の奉仕作業で墓地の一斉清掃を行います。「おらとこの寺」という親しみがわいてきます。

仏教ではお墓参りが大事に思われがちですが、浄土真宗ではむしろ、お寺の報恩講などの法座に参ることがとても大切です。わが寺はもちろん、浄土真宗のどこのお寺の法座にお参りしてもかまいません。
お内仏(お仏壇)はいつもより丁寧に掃除しましょう。お墓参りなどでお寺に来たときは、お寺の主である本堂の阿弥陀様に挨拶することもお忘れなく。また、お墓を汚したりカラスに荒らされたりしないよう、お供え物やロウソクは持ち帰ることをお勧めします。

どうもありがとうございました。

なお、今回お話を伺っていないこのほかの仏教系宗派や神道でも、それぞれ先祖供養や先祖崇拝を目的としたお盆の行事やならわしがあるようです。キリスト教やイスラム教にはお盆に関する行事やならわしはありません。

お盆前にチェック! 夏場に目立つお墓の汚れとその対処法

① 黄砂・花粉

春から夏にかけて降り積もった黄砂や花粉は、ほったらかしにしておくくと取れにくくなり、墓石や目地をいためる原因になります。夏までの間なら、かたく絞った雑巾や毛の硬くないブラシ(歯ブラシなど)ですぐ落とせます。金ダワシなどの硬い用具でこするのは、お墓の表面や目地をいためてしまうかもしれないのでおススメしません。



② 水アカ

屋外にあるお墓は雨風にさらされていますので、表面がツルツルでもザラザラでも年月とともに水アカ汚れがついてしまいます。
水アカ落としには、薬剤を使う方法と研磨用具でこすり落とす方法が考えられます。薬剤を使う場合、化学反応によって石材をいためるおそれがあるので、手早く使い、念入りに水洗いをして薬剤を流し切りましょう。
こすり落とす場合は、市販の「石材用 水アカ取り消しゴム」が便利です。



③ コケ・草・カビ

お墓の目地の部分にコケや草が生えていたら、目地材の劣化が進んでいる目印です。放置すると目地材をますます劣化させるので、見つけたら除去しましょう。
目地材の劣化はお墓にさまざまな悪影響を及ぼします(特に冬場の凍結によるズレやヒビ割れなど。詳しくは前号のニュースレターをご覧ください)。お気づきの際には石材店にご相談するなどして、目地直しをご検討されることをお勧めします。



④ ロウ

ロウソクが溶けたり垂れたりしてお墓についたロウは、なかなか手ごわい汚れになります。磨き仕上げのお墓ならばカッターなどである程度削り取ることができます。ロウを除去する薬剤を使用する際は、②と同様、石材をいためないよう注意が必要です。
ロウが広い範囲にこびりつくなどして対処に困るような場合は、お気軽に石材店にご相談ください。石材表面を磨き直して新品同様に仕上げることもできます。



広範囲の汚れなど、対処にお困りの際はどうぞお気軽に石材店へご相談ください。